

令和5年度第3回小規模多機能型居宅介護事業所 「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和5年8月24日（木）10：30～11：30

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 大木健守 伊野喜代司 及川大樹 太田奈津栄 江波戸勝
高齢者支援課 向後

〔 社協 渡辺副会長 局長
紙ふうせん 佐藤 〕

●開会のことば 渡辺副会長

●委員長あいさつ

●議題

（1）令和5年度6月・7月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告があったが何か質問はあるか。

及 川：今年は猛暑だが利用者の体調はどうか。またコロナも感染者数が増加しているようだが紙ふうせんではどうか。

佐 藤：食欲が落ちたり、風邪症状の利用者が数人いる。コロナについては職員、利用者共に感染者はいない。

委員長：コロナが5類に移行し世間では感染しても気にしない人が多いように感じる。

太 田：職場や家庭内での感染が多いようだ。

委員長：検温は続けているのか。

佐 藤：来所時と昼食後の2回検温している。

大 木：野手の利用者が1人減っているがなぜか。

佐 藤：入院した。その後亡くなっている。

委員長：他のデイサービスでカラオケをやっているようだが、紙ふうせんではどうか。

佐 藤：同じマイクを使いまわすのは感染症リスクがあるので、マイクを使わずにレクの時や帰りの時など唄っている。歌の好きな人は自分で歌詞カードを持ってきている。

渡 辺：歌はお腹から声を出すのでリハビリにもなる。

大 木：体操はやっているのか。

佐 藤：毎回レクリエーション前に行っている。市のいきいき体操もやっている。利用者のなかには100歳体操に参加している人もいる。紙ふうせんでは転倒リスクがある利用者が多いので座って行う体操をやっている。

委員長：地域包括は利用者が多いのか。

向 後：相談は多い。

委員長：最初にどこに相談に行くかという地域包括。周囲にも地域包括に行くように言っている。

大 木：民生委員の中で地域の温度差がある。やっている地域は自分たちであれをやろう、これをやろうと案がでるが、やらない地域は何をやっているのかわからない。地区社協も力がないと市全体でまとまることができない。新しく民

生委員になった人はわからない事が多い。知識がないと何をやったらいいのかわからないので勉強会をどんどんやるべき。

向 後：地域の温度差は感じる。野栄地区は活発に活動している印象があるが、地域のよってはスタートの段階で止まってしまう。一斉に活動するのは難しい。

委員長：福祉の充実につながるように、各地区で出来ることをやっていくしかない。

(2) その他

①三期比較表について

局 長：〈収入〉介護保険事業収入は令和4年7月に比べると前年比が91.8%となっている。前年より利用者数が減ったり、介護度が軽い利用者が増えたためと思われる。

〈支出〉人件費は前年とほぼ同じ。法定福利費が前年比218%となっているのは、パートの職員1人が嘱託職員と同じようにフルで働いているため、社会保険加入となり増加している。また、給食材料費支出も物価高騰のため、前年比111%となっている。

当期資金収支差額合計を見ると今年度の赤字額が前年度より大きいのが、介護保険の収入が2か月遅れで入るため。

紙ふうせんの運営は若干赤字傾向だが、訪問介護事業の障害福祉サービスが黒字なので決算ではマイナスが出ないように調整している。去年と比べると食材費や法定福利費が増加しているが、だいたい去年と同じとなっている。

ただ、まだ今年度4か月分なのでこの先どうなるか見ていきたい。

②高齢者及び障がい者虐待防止のための指針・感染症対策指針について

局 長：前回概要については説明したので、時間のある時資料を見て欲しい。委員会の設置も行いメンバーは自分、次長、紙ふうせん管理者佐藤、訪問介護提供責任者越川の4人となっている。BCP計画も作成中。

●閉会のことば 渡辺副会長